



Newsletter of Tohoku Branch of Servas Japan

TOHOKU SERVAS

日本サーバス東北支部会報

2006年10月発行

1 東北支部事務局だより

3月 日本サーバス第28回国内会議開催されました。

3月18～19の両日新潟市の「ユニゾンプラザ」で開催されました。

地元東北支部が開催でした。全国の各支部から11名、それに本部関係者8名の約20名が参加。

ピースセクレタリー提案の「核兵器廃絶アピール」が採択されました。

来年度の国内会議は関東で3月17～18日に開催されます。

○日本サーバス東北支部 平成18年5月 No.61 から

1. 支部総会開催されました

平成18年度支部総会が4月22日（土）仙台市で開催されました。出席者は以下の9名でした。

総会は自己紹介から始まり、欠席会員の近況報告、国内会議報告の順に進められました。

3月18日～19日の国内会議（新潟）について報告と挨拶 支部長挨拶

「会議議事録は本部から近々送付されますが、今回全国から28名もの多くの会員が参加しました。会議は和やかな雰囲気の中で行われ、予定していた議事を無事済ませることができました。東北支部からの出席者は本当にご苦労さまでした。事務局を初めとして皆さんのご協力で無事国内会議を終えることができ、ほっとしています。1日目の夜の懇親会でも雰囲気は非常に良かったと思いました。国内会議は諸般を考慮し、来年度からは東京と大阪で開催され、しばらくは地方での開催はありません。来年度の開催地は東京で3月17日（土）～18日（日）の予定です。」

2 その他お知らせ

(1) 平成18年度の会費未納の方は口座への振り込みをお願いします。

(2) サマーキャンプ

8月5日（土）に伊達市（福島県・福島市の近く）のユースホステルでサマーキャンプを実施しました。

(3) 秋田県で新会員一名ありました。支部ニュースでご紹介したとおりです。メッセージを紹介します

趣味：アメリカに興味があり、英語を勉強中です。

海外の映画をよく見て、音楽を聴いています。

その他ピアノ、歌を歌うこと。絵を描くこと、コラージュをよくし

ます。スポーツも好きです。

2 ニューヨークからのメール

第一便

Hello. Message from NY.

私は今、NYのブロンクスという所からこのメールを送っています。NYは現在10月13日金曜日の12:17 AMです。WOW! 13日の金曜日! アメリカで迎える13日の金曜日です。NYは私が着いたときからずっと晴れでしたが、今日は曇りで、夜は風が少し強いです。

NY生活を始めてから9日目の今日。現在はブロンクスのNewman夫妻の家に滞在中です。ホストはこれで4組目。このNewman夫妻は素敵な夫婦ですし、他の全てのホストもとても良い人達でした。

NYはとても良く、面白いところです。面白い所という意味は、日本の東京の意味する「都会」と全然違うということです。写真で見るNYの都会の風景はミッドタウンやダウントウンに集中していて、違うところには大きな森、川、城、港が自然豊かに溢れているのです。本当に美しく、マンハッタンにいるのではない。。。と思うくらいです。もっと詳しい話は次回。それでは

第二便

NYは現在1:00PM。

今日は雲ひとつない青く美しい空です。しかし、昨日の夜から冷え込んできたので、今日も肌寒いです。そろそろNYも冬に入ってきたのかと思っています。

現在滞在しているNewman夫妻は、敬虔なユダヤ教(Jewish)信者で、今日はユダヤ教のSabbath(サバス)という日になります。これは一週間に一回行うしきたりで、金曜日の日没から土曜日の日没まで電話を取らない、ドアのベルがなくても対応しない、電気をつけない、電気製品を使わない、というおそらく昔のユダヤ人の生活に帰ろうという日を設けているのだと思います。電気製品などを使わないので、今日の分の夕食は昨日から作っておきます。昨日見たところ、ホストマザーであるZeldaはオープンですごくいい香りのするおいしそうな魚を焼いています。

「これは明日のディナーよ。」と。

ただし、トイレの電気だけは付けておくのだそうです。また、ユダヤ教信者である彼らだけがそれに従いたいのであって、私はいつものように電気を使っているのだそうです。いまだに私は完全に全てを把握していませんが、次第にその時間になって来たら分かるでしょう。

東北も寒いですか?

この家には黒い子猫が一匹いて、とても好奇心旺盛で、しかし臆病です。

日本の動物も、NYの動物もみんな変わらずかわいいです。

それでは、また次回。

第三便

NYは現在10月13日の午後11:50分。

もう一人ユダヤ人の女性を招いて、私たち4人の Sabbath の夕食が終わりました。一週間に一度と頻繁に行う儀式ですが、それでもお祝いなので今日の夕食はアメリカらしく美しいものでした。アメリカ映画で見るような光景です。テーブルにピンクと白のレースをしき、ワイングラスにお皿、フォークとスプーンが並べられています。

アメリカのゲストを招いた夕食は、テーブルの席とソファのある場所の二箇所を使っているようです。つまり、最初は30分くらいみんなでソファに座って食事とは関係なく会談をします。そしてだんだんと雰囲気が暖まってきたら、「さあ食事に移りましょう」とテーブルに移動します。

Sabbath のお祝いは、ホストファーザーである David がヘブライ語で祈りの言葉を述べ、一つのワイングラスにみなみと注いだワインを他の人のワイングラスに分けみんなで飲みます。分けている間美しいテーブルレースに赤いワインがボタボタとこぼれても気にしません。こういうのもアメリカ人だと思います。日本人は格好がきれいか、よく見えるか、相手に不快感を与えないかと、外見をまず気にする人種だと思います。自分がどう捉えるかより、相手の立場にたってすぐ考えようとすると思います。

もし、この光景が日本だとしたら、こぼした本人やその家庭のお母さんが「あらあら、こぼしちゃった。ふきん持ってきて。」となると思いますが、アメリカ人は外見がどうより、中身で勝負していると思います。相手がどう思うより、自分がどう思うか、自分がその出来事をどう処理するか、です。

もちろん私以外の他の人達はそういう環境で育ったアメリカ人なので、もちろんワインがどうなろうが気にしていませんでした。

さて、食事の内容に戻りましょう。その最初の儀式のあと、ヘブライ語で Sabbath と書かれたふきんをかぶせられていた特別の大きなパンを切って、みんなで分け合って味わいます。その時私はお腹がすいていたので、そのパンをずっと食べている光景に「ああ、日本だったらテーブルに全ての料理がズラー並べられていて、自分で食べたいものを取って食べることになるだろうな」と両国の違いを思っていました。

そのパンの後、各自のテーブルにもともと置かれていたメロンをいただきました。食事の初めにまずはデザート。面白いです。

その次に本当のご馳走がどんどん出てきました。食事の初めのパンを沢山お腹に詰めていた私は「最初に出てきてくれたらなあ」と少々思いました。

: ポテトや色とりどりのピーマンと玉ねぎを茹でて味付けしたもの

: 豆や小麦などをチーズで焼いたパイ

: ナスを味噌のようなもので味付けしたもの

: 湯でとうもろこし

: 昨日から作っていたサーモンのオープン焼き

それから本当のデザートが出てきます。

: チョコレートケーキ

:アップルケーキ

:コーヒーアイスクリーム

:ストロベリーアイスクリーム

これにコーヒーや紅茶がつかます。

ディナーの料理はもちろんですが、デザートも全て手作りで。

デザートはZeldaの手作りですが、ディナー料理はDavidが大半を作っています。Zeldaももちろん物を運んだりしますが、彼女はもう一人のゲストとの会話に専念していて、その他の仕事はDavidがしていました。物運び、皿洗い、残ったものをパッキングする、テーブルの掃除など。

Davidは本当に良いHusbandで、美しいカップルでした。

Zeldaは59歳。もちろん現役で言語学の教授として働いていて、Davidは歯医者さんを退職しました。ので、Zelda曰く、「私が働いている代わりに、家事の役割を完全にChangeした」のだそうです。

アメリカの家庭は大半が5:5です。つまりどちらが良く働いて、どちらが指図しているか、そういうのはありません。大半が平等です。またはWife: Husbandだとすると、6:4というところも数多くあります。

Davidは最高のHusbandだと私は思うので、Zeldaがうらやましいです。2組目の夫婦CaroleとAlも、6:4とWifeがリードしていました。とにかくアメリカは、いろいろな面でとても良い国です。

ではまた。

3 トラベラー受け入れ報告

(1) オーストラリアからのトラベラー受け入れ報告

4月25日 一泊 John and Margaret Booth (65歳)

Boothご夫婦は早朝、桜の花がまだ蕾の札幌から津軽海峡線と東北新幹線を乗り継いで桜満開の仙台に到着しました。彼れの国オーストラリアの今の季節は日本とは反対に秋ということもあって、より日本の春を満喫しているようでした。滞在が一泊ということもあって、やはりあわただしいものになりました。

「男女平等とは」

ご夫婦とも65歳と同じ年で5年前に退職した元教師ご夫婦でした。38歳で小学校の校長先生になったご主人。子どもが生まれて10歳になるまで休職し、娘さんが高校生になるまでパートの小学校の教師をしていた奥さんのマーガレット。当時のシドニーでも保育園はとて少なく女性がキャリアを伸ばそうとしたら子育ては簡単ではなかったとのこと。私の世代の日本の女性たちとあまり変わらない状況だったのではないのでしょうか。「男女参画推進」などと日本でも昨今言われるようになって女性も以前よりは働きやすくなってきてでしょう。しかしマーガレットの世代の女性の立場はオーストラリアも日本の女性も差ほど変わらない状況に置かれていたのではないかと改めて思いました。

「孫が欲しい」

旅が好きで毎年のように海外に出ているご夫婦ですが、来年は一年間どこにも行かないとのこと。その理由を尋ねると「孫が生まれるはずだから.....」と。彼らの一人娘さんが幸せなことに昨年11月に結婚することができた。娘さんの36歳の年齢もあってみんな“赤ちゃん”を期待している。「だから来年は必ず孫が生まれるはずだから、旅行で長期に留守をすることができない」と。二人の一生懸命な説明には思わず苦笑いをしてしまった。“子どもを生む”ということは若い夫婦のもっとも個人的な問題であるはずなのに。日本人の親子の関係にはよくあ

る場面でも、個人主義のより強いオーストラリアのご夫婦からの話だからとても興味がありました。親子関係にクルの人よりも孫の生まれるのを熱望しているご夫婦にとっても人間味を感じました。

サーバス・トラベラーを受け入れることで新しい発見があり、また一つ心豊かになったと思います。

(2) フランスからのトラベラー受け入れ報告

5月9日 Michel・AUGER (男性・57歳)

自宅での塾の仕事の他に、今年は地域30所帯の班長、さらにサーバスの事務局の仕事とトラベラーの受け入れが続き私の身体の方がとうとう悲鳴をあげてしまいました。 ミッシェルが到着した日もまで具合が悪く、夫と意気投合していることを幸いに私は早々と寝てしまいましたが、でもいろいろ新しい発見もしました。次の日、新会員さんが一日ミッシェルさんの Day Host をしてくださって本当に助かりました。ありがとうございました。[禁煙に失敗] 昨今の健康志向のためでしょうか、サーバス・トラベラーだけでなく、煙草を吸うことは珍しいこととなってきました。ミッシェルさんもその事は重々承知で20回以上禁煙を試みたそうですがいずれも失敗したそうです。我が家で、煙草は外に出て吸いますからと頻りに恐縮するミッシェルの姿に(そんなに卑屈になると格好悪い.....わ!) 同情して灰皿を渡してしまう私でした。サーバリストにも Nonsmokers の記載が年々多くなるので彼のような立場の人はどんなにか肩身がせまいことでしょう。

[メル友] ミッシェル!

Eメール、フックスメール、手紙や葉書と人とコミュニケーションを常にとっている人でその点が特に印象的でした。ミッシェルさんのメル友が日本各地に20名以上いて(世界のあちこちにいるメル友の数はどれくらいなのかしら.....55歳で教職を退いたのに全然退屈でないと言う訳はメル友の存在なのでしょう!)、日本語の勉強に大変役立っているとのことでした。

5年前、日本の文化の虜になってから日本語を始めたそうですがメル友との交流もどんどん発展して行って、メル友の何人かはパリから車で一時間のミッシェルさんの自宅に滞在しているそうです。サーバスを知ったのも2年前メル友からだということです。サーバスの広がりを感じました。

(3) 5月8日(月) ピンチヒッターで初めてのデイホストを引き受けた。ミッシェルさんは日本語で大丈夫だからという誘いにホイホイと乗ってしまったのだ。旅にも個性がある。私は定点逗留型で、ひとつ所でボーっと日向ぼっこをするのが好きだ。ミッシェルさんは正反対で、一晩寝たら次へ、また寝たら次の地点へ、じりじりと奥の細道へ分け入ってきたお遍路さんタイプである。荷物も少ない。ウェストポーチとナイロン製合宿バッグひとつ。2ヶ月もの長旅にたったこれだけである。これでは「ちょっくら行ってくる」という気にもなるかも、と納得した。

今日の宿は米沢ということなので白石城へ車で出発。道中、彼ははいねいな日本語で「ワタシハ〜シマシタ」「アナタハ〜デスカ」と一生懸命話し掛けてくれるのだが、私は「ああそうですか」「いいえちがいます」という短い返事しかできなかつた。今となっては、なんと無愛想なと反省するが、頭の中では言いたい事や聞きたいことが沸騰していた。しかし私は運転中で、信号を見たり標識を見たり、線からはみ出ないようにハンドルを微調整したり、ブレーキを踏んだりと忙しかつたのである。「とっさのひとこと」を記憶の奥から探してる暇などない。そのうえ会話全編がいつでも「とっさ」である。NHK教育のテキストは出番がなかつた。

市内に入って、探すより早いと車を降りて道を聞いた。お店の人に観光マップをもらってお城の場所を確認。彼に渡 頼むがグルグル迷子になる。12時半到着。小ぬか雨降る白石城は連休明けで貸切状態だった。若葉の鮮やかな緑とお城の真っ白な壁のコントラストが美しく、静かに散策する二人は映画のワンカットのようであった。「セルヴァ イルヴァブヴォン ヴィアン コムデギャルゾネ」なんて聞こえてきそうな風景である。(でたらめ語なので辞書などひかないように) 3時に名物の「うーめん」を食べて後は駅に行くだけなのに方向音痴なのでまた迷子になってしまった。現在地が分からなければ地図など役に立たない。お店にとびこんで聞くのが一番である。するとまた地図をくれる。スタンプラリーのようにたまった地図が彼の膝の上に乗っている。「ミギデス」「ヒダリデス」、曲がるたびに戻ってるような気がする。信号待ちにチラッと地図に目をやると、なんと!逆さまでしよう、それは!

なんとか新幹線に間に合って、今度は安心して何回でも迷子になれると思ったらスイスイ迷わず1時間で帰宅。なんであんな簡単な道で迷子になったのか不思議発見であった。肌寒い天気だったが白石の人々はみんなとても親切で、私たちは「アリガトウゴザイマス」を連発して心が温まった。ミッシェルさんの「みちのく一人旅」は続いている。どうぞご無事で楽しんで下さい。

(3) ドイツからのトラベラー受け入れ報告

5月19日(金)～21日(日) Carlo Shreiber (男・20歳)

4月中旬頃Eメールで5月に新潟に来たいと言ってきた。それ以来何度かメールをやりとり、最終的に5月19日～21日と決まった。19日夜私があいにくパーティがあって、近くの駅で会うのが遅かったが、午後3時頃私がまだ大学にいるときに彼はすでに我が家に到着していた(!?)。普通トラベラーは前の晩に電話で明日は何時にどこどこで会いましょうと確認するのであるが、彼の場合前の晩は何の連絡もなく、果たして19日に本当に我が家に来るのか半信半疑だった。彼は誰か見知らぬ日本人に我が家まで送ってもらったようだったが、日中我が家には90歳の母しかいない。それで申し訳なかったが、夜8時半に近くの駅で会いましょうということになった。

8時半過ぎ、パーティが終わり次第私は我が家からそう遠くない駅へ直行した。彼は大きな荷物を持って駅の前に立っていた。“Willkommen zu Niigata! Mein name ist Takahashi” とか知っているドイツ語(大学のとき大変しごかれたせいかわたしにドイツは忘れない。)を入れて英語で話す。数分で我が家に到着。家内は今夜は夜勤である。夕食はどうかと聞くとまだだと言うので娘が簡単な夕食を準備してくれた。彼の話によると、今日は仙台から大宮回りで新潟に来たとのこと。新幹線が速すぎたと言っていた。日本に来る前にあちこちメールを送ったが返事を出したのは私だけだったそうである。

カルロ君は20歳で、秋から大学に入ることになっている。住まいはベルギー、オランダの国境近くのアーヘンという町である。両国へはとても近く、今はEUのためパスポートなしで自由に行き来でき、午前はベルギー、午後はオランダと車で簡単に行けるそうである。島国日本とは偉い違いである。家族は両親と兄。両親と言えは食事後彼はドイツに電話し、母と長々と話をしていた。

彼の趣味はパソコンらしく、その操作は見事であった。彼の故郷アーヘンのホームページを早速だし、町のことをいろいろと説明してくれた。2日目午後市内に行ったが帰りに駅の中に大型カメラ店を見つけ、そこで任天堂のゲームソフトを買った。このゲームソフトは東京でも仙台でも見つからなかった、ドイツだと売り出すのが今年の秋頃で、しかも価格が2、3倍するので自分と友人のために2個買ったと言っていた。彼の英語はいまいちの英語で私が早く話すとう理解できないので私はつとめてゆっくりと話さざるをえなかった。テレビでは野球に興味を持っていたが、野球のルールを英語で説明するのは大変難しい。でも私の説明から何となく理解しているようだった。2日目の朝、NHKの衛星放送でドイツ語のニュースを見るチャンスがあった。異国での本国からのニュースを彼はどのような気持ちで聞いていただろうか。

2日目は朝から快晴だった。彼はよく眠っていた。朝食後家の裏の松林へ犬と一緒に出かけた。20メートルはある松が群生している。今頃はその松につたがからみ、先を争うように木のとっぺんまでからまりついている。その光景は実に美しい。特に雨上がりにはっとさせられるくらいの美しさである。彼はしきりに写真を撮っていたが、ドイツの故郷の近くにも大きな湖があって、自然は美しいと言っていた。歩いて10分位で日本海である。まだだれもいない日本海を見て、家に帰ってきた。

午後から彼は一人で市内に出かけた。夕食を食べながらいろいろ話をする。私が教えた新潟で一番高い「朱鷺メッセ」教えたが、その最上階の展望台に行ってきたという。午前は見えなかった佐渡が見えたそうである。彼は新潟のあと京都で6日過ごす予定である。どこに滞在するのか聞いたらユースホテルという。一泊素泊まりで3千円だそう。その後は中国に行き、なんと2ヶ月(!)中国で過ごし、8月上旬に帰国する予定と言っていた。20歳と言えは日本では大学2年生であるが、私の大学の学生を見回しても夏休みを利用してヨーロッパ旅行とかの話は聞かない。日本人の学生からは昔の小田実流の「何でも見てやろう」的な冒険心はなくなったのであろうか。それとも昨今の海外の治安の悪化が学生たちの海外熱を冷ましているのであらうか。私の一番下の息子は22歳であるが、大学生のときに海外へ行くなど一言も言わなかった。若いときの海外一人旅は実におもしろいし、様々なことを学ぶ絶好の機会である。私が夏休みを利用してヨーロッパへ行ったのは26、7歳のときであるが、カルロ君の旅の姿を見て、昔の自分自身を思い出した。カルロ君もこの旅から多くのことを学ぶに違いない。カルロ君は20歳にしては礼儀正しい若者であった。21日、日曜日、午前11時の新幹線で彼は京都へと向かった。

(4) フランスからのトラベラー受け入れ報告(

5) 5月10日～12日 ミッシェルさん

[所感その他]

- ・日本語を勉強している人！サーバストラベラーでは数少ない人に入る。
- ・フランスのデモのこと、次期大統領のことなどよく話してくれた。日本のこともよく知っている。
- ・彼と一緒に三春の滝桜、大沢の大杉、土湯の女沼など日本の自然を案内する。日本人の神についての考え方を説明する。農作業 をしている農家の人と田植えを見学する。温泉 にも行く。
- ・Hobby:はスカイダイビング。6千メートルの高度から3000回を越える経験をしている。
- ・マダガスカルで2年の軍役。その後教師。
- ・是非フランスに来てほしいと招待される。

(5) トラベラー受け入れ報告 ジュンについて

ジュンさんは女性で25歳だったと思います。私は仕事であまり長い時間一緒にいませんでしたが、歳が近くて日本語が上手だったこともあり、すごく仲良くなりました。ジュンさんは音楽が好きで、私の弟がギターの弾き語りをすると喜んでくれました。土曜には母と蔵王のお釜に行ったようです。母とも打ち解け、日本語が話せるので祖母も積極的に会話していました。たまに方言が通じないところがまたおもしろかったです。楽しそうにしているジュンさんを見て、旅に対する想いが再燃しました。